

[HOME](#) > [生活・療養](#) > [子どものケア](#) > 小児がんと言われた子どもの心に起こること

## ✿ 小児がんと言われた子どもの心に起こること

更新・確認日：2014年04月22日 [[履歴](#)]

### 履歴

2014年04月22日 2013年6月発行の冊子とがん情報サービスの情報を再編集し、掲載しました。

[閉じる](#)

幼児期の子どもは、大人の態度や言動をよく観察しています。周囲のただならぬ雰囲気から、自分に大変なことが起きているという感じ取ることがあります。小学生以上になれば、親と同様に「がん（腫瘍）」という言葉から、命に関わる病気かもしれないと感じる子どももいます。

今起きていることや、これから起きることがわからない上に、体調も悪いとなると、子どもはとても不安になります。不安が高まると、いろいろなことに敏感になります。例えば、痛みを感じやすくなったり、寝付きが悪くなったりすることがあります。

子ども自身が「治したい」という自覚を持って、納得して治療に臨めるようにするために、子どもにどのように伝えるか、医療スタッフとしっかり話し合みましょう。漠然とした不安を抱えながら治療を進めていくよりも、周囲から支えられていることを感じながら、試練を乗り越えることができると、子どもは精神的により成長することが知られています。

これからの入院生活の中で本人が孤立しないように、本人と家族と医療チームの間に信頼が築けるような態勢をまず整えましょう。

[🏠 子どものケア へ戻る](#)

### 関連情報

[がん情報サービス](#) [生活・療養](#) [ganjoho.jp](#)

よりよい情報提供を行うために、アンケートへの協力をお願いいたします。

[📄 アンケートページへ](#)